

令和2年度事業報告書

公益社団法人 被害者サポートセンターおかやま (VSCO)

令和2年度事業の状況

1 はじめに

当センターは、平成15年11月29日の発足以来、23年3月には岡山県公安委員会から「犯罪被害者等早期援助団体」の指定、25年4月には岡山県知事から公益社団法人の認定を受け、殺人、傷害、性犯罪、交通事故、DV、ストーカー、児童・高齢者・障がい者虐待などの犯罪被害者等が受けた被害の回復又は軽減に資するために、電話・面接相談、専門家への橋渡し・裁判支援・生活支援・心の支援などの直接支援、自助グループの支援及び犯罪被害者等給付金支給の申請補助など、犯罪被害者支援のための活動を実施している。また、これらの活動と密接不可分である他機関等との連携、支援員の養成・研修及び広報・啓発活動を積極的に展開している。

また、近年、性被害の相談が非常に多いことから、日本財団預保納付金支援事業として28年度に「性犯罪被害者等支援センターおかやま」を立ち上げ、性犯罪被害に特化した専用電話を設置したが、預保納付金支援事業の終了により30年度から相談支援体制を縮小せざるを得ない状況が続いていた。昨年9月には名称を「性暴力被害者支援センター『おかやま心』」に変更した。

一方、国においては、性犯罪・性暴力の根絶を目指し、昨年6月に「性犯罪・性暴力対策の強化方針」を決定、2年度から4年度までの3年間を性犯罪・性暴力対策の「集中強化期間」とし、被害者支援の強化に取り組むこととした。こうしたことから、県においても令和3年度からワンストップ支援センターの相談機能強化、相談窓口の周知拡大等の施策等を当センターと協働で実施する予定である。

2 役員等

代表理事	平松敏男
業務執行理事	嶋村 稔、難波 光、
理事	若林久義、中島豊爾、加藤裕司、松村正基、片山 文
監事	森本治雄
顧問	村田吉隆、岡崎 彬、皆木英也、松田 久
協力スタッフ	精神科医：堀井茂男、来住由樹 弁護士：14人
事務局長	藤原一徳
事務局員	片山 文、保科節子
支援員	(令和3年3月1日現在)

犯罪被害相談員6名、犯罪被害者等給付金申請補助員4名、電話・面接相談員15名、犯罪被害者直接支援員12名、自助グループ支援員4名

3 主な事項

(1) 令和2年6月20日 令和2年度定時社員総会

2019年度事業を報告し、決算が承認された。理事8人（嶋村稔、難波光、若林久義、中島豊爾、松村正基、川野豊、加藤裕司、片山文）と監事1人（森本治雄）が選任された。

なお、理事会は月1回開催した。（4月23日、5月14日、6月11日・20日、7月14日、8月11日、9月15日、10月13日、11月10日、12月8日、1月26日、2月15日、3月23日）

6月20日の理事会において業務執行理事に嶋村稔理事、難波光理事を選定した。

公益社団法人移行により、理事会の承認事項が増えたが、財政基盤づくり、広報啓発活動、性暴力被害者のための支援活動等について、活発に議論し、議決している。

(2) 会員の推移

正会員	令和 2年4月 1日現在	個人107名、団体 3団体
	令和 3年3月31日現在	個人 96名、団体 2団体
賛助会員	令和 2年4月 1日現在	個人194名、団体47団体
	令和 3年3月31日現在	個人170名、団体52団体

(3) 表彰状・感謝状の贈呈

日時 令和2年6月20日（令和2年度定時社員総会）

表彰状受賞者 支援員（1名）

感謝状受賞者 正会員（個人1名）正会員歴10年
賛助会員（団体1）賛助会員歴10年
多額寄付者（個人1名）
多額寄付者（団体9）
事業推進協力者（1名）

4 主な事業及び活動内容

(1) 相談・直接支援事業、普及啓発等の事業について

令和2年4月1日、岡山県警察本部と令和2年度被害者相談・直接支援等業務委託契約を締結。岡山県から令和2年6月30日に犯罪被害者等支援のための普及啓発業務、7月30日に性犯罪被害・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター等啓発業務を受託した。

また、岡山市から5月1日にDV被害を防止するための啓発等の講座を行う業務を受託した。

実績は次のとおり

ア 相談事業

実績は、別紙「被害者支援活動の実施状況」のとおり

イ 直接支援事業

- (ア) 実績は、別紙「被害者支援活動の実施状況」のとおり。
- (イ) 直接支援事業の一環として「自助グループ」を2回開催した。
- (ウ) 犯罪被害者支援金として、VSCO規程により14件支給した。

ウ 広報啓発事業

(ア) 岡山県委託事業

- ・令和2年10月9日(金) ピュアリティまきび(岡山市) 参加87人
演 題Ⅰ 「VSCOの被害者支援協力弁護士の立場から見えること」
講 師 VSCO代表理事 平松敏男
演 題Ⅱ 「犯罪被害者の現状とその支援」
講 師 VSCO理事 片山 文

(イ) 岡山県警察委託事業

- ・令和2年11月29日(日) ピュアリティまきび(岡山市) 参加157人
講 演 「光市母子殺害事件が時を超えて私達に訴えるもの」
講 師 門田 隆将氏(ジャーナリスト)
VSCOの発表 「被害者支援の現状について」
講 師 家野 昌子支援員
「いのちと魂のメッセージ」のパネル展示

(ウ) 岡山市共催事業

- ・令和3年2月20日(土) ピュアリティまきび(岡山市) 参加64人
講 演 「犯罪被害者等の実態と支援」
～トラウマインフォームドな視点 からみた他機関連携の必要性～
講 師 大岡 由佳氏(武庫川女子大学准教授)
ミニコンサート ワイラジャパン
南米民族楽器演奏者 グッドベン・ゴンサ
「いのちと魂のメッセージ」のパネル展示

(エ) 岡山市DV防止啓発等業務委託事業

- ・第1回パープルリボンセミナー「あなたに知ってほしいこと」
令和3年1月28日(木) 岡山市立福浜公民館 参加25人
講師 片山 文(VSCO支援員)
- ・第2回パープルリボンセミナー「あなたに知ってほしいこと」
令和3年2月12日(金) 岡山市立御津公民館 参加36人
講師 片山 文(VSCO支援員)
- ・第3回パープルリボンセミナー「災害とジェンダー」
令和3年3月2日(火) ピュアリティまきび 参加27人
講師 正井 禮子(ウィメンズネット・こうべ代表理事)

(オ) その他の活動

- ・美作大学（性暴力被害者の現状について）、笠岡高校（デートDV予防・啓発）、総社市役所（DVや虐待を防ぐために）で講演・講座を開催
- ・機関誌「いつでもそばに」第16号の発行（3,000部）
- ・ホームページで、「被害にあった方へ」「性犯罪にあった方へ」、「活動状況」、「今日のVSCOは?」、「自治体の被害者支援」、「会員・組織、機関誌」、「VSCOの講師派遣制度」、「VSCOの支援を受けて」、「VSCOのテーマソング一窓の外には一」、「入会のお願い」、「寄附のお願い」、等々を掲載
- ・啓発チラシ配布等で、県民や被害者に向けて、講演会・フォーラムの開催や電話相談等を紹介
- ・関係団体や関係機関との連携として、県産婦人科医会及び加盟医療機関との連絡会、おかやま被害者支援ネットワーク会議等へ参加
- ・関係団体（者）への広報啓発として、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、町内会等への講話。養護教諭研修会場、大学・専門学校、市町村役場等へ機関誌を持参しVSCOの活動を紹介

(2) 支援員等養成研修事業

ア 本年度の支援員養成基礎講座・中級講座は新型コロナウイルスの拡大を受け中止とした。

イ 支援員継続研修（日本財団の助成を受けて実施）

実施日：毎月第2土曜日16：15～18：30

研修内容、参加人数は次表のとおり 回数：7回

活動中の支援員を対象に外部講師等に依頼し専門的な指導を受けることができた。

【支援員継続研修】

開催月日	基礎知識	事例検討・講義等	参加
7月11日	①相談の技術 ②被害者電話の特殊性	電話相談経験の中で感じたこと など自由討議	16人
8月8日	①相談の技術 ②電話相談対応困難事例 ③注意を要する相談者	電話相談ワークシート	9人
9月12日	①面接相談技術 ②被害者が受ける二次的被害		14人
10月10日	①直接的支援 ②刑事手続関連支援	DVD視聴 直接支援の展開 緊急事態の具体的事例	11人
11月14日	①病院付添支援 ②受診から1月後の電話相談 ③面接相談	ロールプレイ ・医療関連支援	11人

2月13日	①犯罪被害の特色と法的関係 ②刑事手続きの概要・説明 ③刑事裁判の手続き ④刑事裁判での被害者保護の手続き ⑤少年事件の手続き	事例検討 ・被害者からの電話相談対応 各都府県の特化条例について	12人
3月13日	①裁判員裁判・公判前整理手続き ②実際の支援事案から知識を深めよう		14人

ウ 全国ネットワーク等主催の研修（日本財団の助成を受けて実施）

新型コロナウイルスの拡大を受け助成対象の研修会、フォーラム等がすべて中止となった。

（3）財政基盤の確立と事務局体制の強化

日本財団の助成を受け、先駆的なファンドレイジング活動としてコンサルタントの指導を受けた経験を生かし、賛助会員、支援自販機の設置、募金箱の設置拡大及びホンデリング、赤い羽根共同募金の推進に努めた。しかしながら、地方経済の長引く景気低迷もあり、会員数はほぼ横ばいとなっている。

寄付型自動販売機については、企業等に設置依頼を積極的に行ってきた。平成25年度3台（48,663円）であったが、県警察や会員・建設会社・自販機メーカーの協力等もあり平成30年度には96台まで増設することができた。ただし、本年度においては建設現場等に設置していた自販機が撤去になるケースが相次ぐなど、72台までに減少し、寄付金総額は1,649,593円（昨年度比310,593円減）と大幅に減額となった。

ホンデリングについては、気軽に協力してもらえる寄付行為と位置づけ、フォーラムの配布資料に折り込みするなど周知を図ってきたが、新型コロナウイルスによりインターネットのみの申込に限定されたことから4件9,059円（昨年度より25,535円減）と大幅に減額となった。

募金箱については、5年前に88台作製して、現在までに59台設置している。2月中に募金箱（29か所）を回収し、150,947円（昨年度比83,027円減）の募金を獲得した。

県共同募金会のテーマ募金は、100万円を目標として募金活動を行ったが、目標額を上回る募金を集め159万円の助成金交付を受けることができた。この助成金は、性暴力被害者支援センター「おかやま心」の運営費及び啓発用リーフレット、ウエットティッシュ等に充当した。

市町村補助金については、本年度も要望活動を行ったが、新規の獲得には至らなかった。人口減少がある中、9市10町2村から総額1,663,211円（昨年度比6,588円減）の補助金を受け、相談事業、養成研修事業、広報啓発事業に充当した。

5 今後の課題

公益社団法人として9年目を迎えるが、今後も引き続き財政基盤の確立及び事務局を含めた支援体制の充実強化に向けて人材の確保を図る必要がある。

また、県民にVSCOの存在と活動内容を周知し、1人でも多くの被害者等に認知してもらえよう広報啓発の強化を図る必要がある。

特に、県内で唯一のワンストップ支援センターである性暴力被害者支援センター「おokayama心」の機能強化、周知拡大を図ることが急務となっている。